

新年明けましておめでとうございます。

宮崎県防衛協会青年部会宮崎支部会員に於かれましては、心新たに清々しい初春をお迎えの事と、大慶至極に存じ上げます。

さて昨年十二月二日の「新田原航空祭」は生憎の寒空・曇天の下でしたが、県内外より沢山の空自ファンが詰めかけて、大変盛大に開催されました。

荒木司令も二日後には空幕に転属されると云う慌ただしい日程の中、来賓の接待など最後までお務めを頂き、本当にご苦勞様でした。

特に多くの観客が午後一番の楽しみにしていた落下傘降下も荒天のため早々に中止となり、習志野より前日から新田原入りしていた地元出身空挺隊員は、故郷の空に純白の華を咲かせる事が出来ず、残念至極だった事でしょう。

さて、先月十六日の衆議院総選挙は大方の予想通り自民党の圧勝に終わり、ご支援頂いた支部会員の皆様も、大いに溜飲を下げられた事かと存じます。

尤も二区、三区の自民党完勝は想定内でしたが、一区は自民、民主、維新のガチンコ勝負で小選挙区は自民、比例は維新と正に理想的な大勝利でした。

同十三日、山形屋前交差点での中山氏応援演説会に石原慎太郎氏が西部警察主題歌をBGMに登壇した折、突然武者震いに襲われた覚えがあります。

演説内容はいつもの官僚批判、複式簿記会計への移行、憲法改正等でしたが、田中真紀子が名付け親の「八十歳の暴走老人」が地位も名誉もかなぐり捨てて、国のため東奔西走する姿に接し、心動ぜぬ人はいないと感じた次第です。

西郷南洲翁は「命もいらず、名もいらず、官位も金もいらぬ人は、始末に困るものなり。この始末に困る人ならでは、艱難をともにして国家の大業は成し得られぬなり。」と云われたそうですが、今の石原慎太郎氏にはそれを彷彿とさせられる何があると感じるのは私の思い過ごしなのでしょうか？

実は同十一日にも平沼赳夫氏が来宮され、目の前でご高説を拝聴する機会に恵まれましたが、いかにも信念の「政治家」らしく揺るぎない国家観をお持ちで、愚衆に迎合して子供手当や高速道路無料化など、耳障りの良いことばかり言う「政治屋」とは大きく異なるように私の目には映ったところでは。

票にはならぬ教育や国防問題から逃げずに正面から取り組み「自らの祖国は自らの手で守らねばならぬ」と正論を説く指導者を育まねば、この国には何時まで経っても敗戦を引き摺った、惨めな国民しか生まれぬような気が致します。

「自民党、維新、みんなの党、民主党右派等の真正保守が糾合蹶起し、憲法改正に着手した」とのニュースが、正夢となるよう願わずにはおられません。

来月二十六、二十七日は中国地区防衛協会青年部会山口大会が開催されますので、皆様の参加をお待ち申し上げる次第です。今年も宜しく願います。

平成二十五年一月一日

宮崎県防衛協会

青年部会

宮崎支部長

小倉和彦

